
僕が転校した学校

紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕が転校した学校

【Nコード】

N6011A

【作者名】

紅

【あらすじ】

僕は新しい学校に転校した。そこにはいろいろなキャラがいた。そこから始まる学校生活。

プロローグ（前書き）

初めてコメディー書きます。よろしければアドバイスをお願いします。

プロローグ

ピピピピピピピピッ

『カチッ』

「フゝもう朝かあ…さて今日から新しい学校かあゝ。どんな学校だろう…?? 楽しみだ…うん。」

のんきに独り言を言ってからのもろもり朝食を食べていると遅刻ギリギリの時間帯だった。

「ヤバッ!! 初日から遅刻なんてシャレになってないよ!!」

僕は急いで身仕度をし学校に向かった。

なんとか遅刻

せずに学校に着いた。あっ言い忘れてたけど僕の名前は、南沢 みなみざわ 秀 しゅう

ついでに高校3年生。なぜ高校3年生に転校かと言うと簡単に言う
と親の都合だ!! まあ1年しかないけど楽しく過ごすつもりだ。朝
のHRが始まり僕は担任の先生に呼ばれ紹介された。自己紹介が終
わりHRが終わった。これから僕の新しい学校生活が始まる。

プロローグ（後書き）

お読み頂きありがとうございます m
（
m

第1話 転校生VS金髪君 前編

休み時間になった。

『それにしてもさっきの自己紹介、緊張したあゝ…みんなの前に出て言うのは恥ずかしいよおゝ…』

そんなことを思いながら僕はボーっとしていたら、

「おいっ!!」

という声が聞こえたが僕に言ったと思わないから振り向かなかったがその声がだんだん力強くなり僕に言っていることに気づいた。僕は急いで振り向き声がしたほうを見た。

『うっそゝん!? 今時…』

僕は見てしまった。そこには朝のHRの時にはいなかった、短ラン、ボンタン姿の子がいた。髪は金髪で身長は僕より低い。あっ!! ちなみに僕の身長は170ぐらいだから。

『今時短ラン、ボンタンの子はいないだろゝ。しかも全然恐くない…』

「おい!! 聞ってるのか!?!」

「あっはい。なんですか!?! (まさか…)」

「ちょっとパンとジュース買ってこいや!!」

きましたあゝ。転校生をパシリに使う不良発見!! まずお金は誰がだすの!?! もちろん俺か!?! (泣) そもそもパン売ってる場所わからないですよ!! しょうがない断るか…全然恐くないし…

「嫌です。自分で買ってきたらどうですか?？」

「いい度胸じゃねえか!! ちょっとついてこいや!!」

転校初日にさっそく呼び出しくらっちゃいました。

テヘッ (笑) まあ喧嘩になったとしても俺より身長は低いし恐くも

ないからなんとか勝てるでしょ：初日から最悪だあゝ。あっ着いたみたい場所は：体育館の裏！？定番だねゝ〇〇の裏って！！他人にばれないように〇〇の裏に行くんだけど結局ばれてるだよね。体育館の裏で何かしたことがある人全部ばれてますよ！！（泣）

心の中でそんなことを思っていたら、金髪君が（なんて呼べばいいかわからないので勝手に命名）

「おい！！俺の言うこと聞かないとはいいい度胸じゃねえか！！言うこと聞くようにしつけてやるよ！！！」

「やっぱりこうなるか…」

こうして金髪君が僕に対するしつけが始まった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6011a/>

僕が転校した学校

2010年10月21日20時46分発行